

平成24年度第1回「東山の未来」区民会議 摘録

1 日時

平成24年11月8日（木） 午後3時～4時40分

2 場所

ハイアット リージェンシー 京都 地下1階ドローイングルーム

3 開会挨拶

副区長：皆様こんにちは。東山区副区長の山口でございます。開会にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。本日、第1回「東山の未来」区民会議を開催するに当たり、委員の皆様には、公私ともに大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

「東山の未来」区民会議は、平成23年1月に策定された東山区基本計画「東山・まち・みらい計画2020」に掲げる施策及び取組項目の進行管理や支援という、これまで東山区基本計画推進委員会が担ってきた役割にとどまらず、東山区の活性化、まちづくりのための東山区の魅力向上や課題の解決に関する事等、より幅広く、まさに「東山の未来」について御議論いただくため、これまでの推進委員会を発展改組したものである。

「東山の未来」区民会議では、より幅広い区民の方の御意見を反映するため、2名の公募委員に参画いただくほか、東山の魅力や課題の解決に関して専門知識を有する大学の先生やNPO法人等の皆様にも参画いただいた。

推進委員会から参画いただいている皆様も、今回新たに委員に御就任いただいた皆様も、活発に御議論いただき、様々な御意見、御助言を頂戴できればと思う。

この会議での、皆様の知恵や経験に基づく様々な御意見、御助言を踏まえ、東山区の豊かな自然景観を守り育て、優れた文化遺産や町並み、脈々と受け継がれてきた伝統文化を次代に引継ぎ、何よりも東山区が誇りとする地域の絆を生かしたまちづくりを推進し、区民の皆様とともに、「東山の未来」を切り拓いていく所存である。

委員の皆様には、御支援と御協力を賜りますようお願いを申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

4 委員紹介

(別紙委員名簿のとおり)

事務局：公募委員については、8月6日に広報発表のうえ、8月15日から1カ月間募集を行い、2名の定員に対して4名の応募があり、9月27日に論文審査等による厳正な選考を行い、選任した。

なお、本日は区長が欠席のため、副区長が代理として委員を務める。

5 委員委嘱

事務局：お手元に置いている委嘱状を御確認いただきたい。

6 座長選出

事務局：区民会議設置要綱第5条に基づき、座長の選出を行う。要綱では、座長は会員の互選により選出することになっているが、平成23年11月に設立しました東山区基本計画推進委員会の座長として、前期推進プログラムをとりまとめていただいた山折先生にお願いしたい。委員の皆様、いかがか。

委員一同：〈拍手〉

事務局：それでは、山折先生にお願いする。続いて、副座長の選出を行う。副座長は、要綱第5条により、座長から指名することになっている。山折座長から、副座長の御指名をお願いします。

座長：推進委員会で副座長として御尽力いただいた井上委員にお願いしたい。

事務局：それでは、座長の指名により、副座長には井上先生に就任いただくことを決定する。

7 座長挨拶

座長：副区長の山口氏の開会の挨拶と重複する部分もあるかと思うが、座長就任にあたり、皆様に御挨拶申し上げる。

「東山」は、奥深い魅力をたたえる「山紫水明」のまちである。一方で、少子高齢化の進展による防災上、防犯上の様々な問題や、産業を支える次世代、後継者の問題や空き家問題など、日本の多くのまちが近い将来直面する課題を一步先に、集中的に抱えている。さらには、世界有数の観光地であるが故の交通問題など、特有の課題も併せ持つまちでもある。

区の基本計画「東山・まち・みらい計画2020」は、学区の住民円卓会議や東山区基本計画策定委員会をはじめ、広く区民の方からもご意見をいただき、昨年1月に策定された。この計画は、魅力と課題を併せ持つ東山区の今後10年間の羅針盤となる計画であると同時に、当時の私たちから10年後の私たち自身へのメッセージでもある。

さて、本年の6月28日に開催された、「東山区基本計画推進委員会」で、『東山の未来』区民会議への発展改組が承認された。「東山区基本計画推進委員会」は、区計画に掲げた4つの未来像を実現するための事業の進行管理と支援を行うことを目的として設立された。

一方『東山の未来』区民会議は、区計画の進行管理・支援にとどまらない、広く東山の活性化、まちづくりに関して議論・審議することを役割としている。

そのため、推進委員会の委員の方に加え、区民公募委員の方、また東山の魅力や課題に関して専門知識を有する大学の先生やNPO法人、公益財団法人の方々に新たに参画いただくことになった。

皆さんの意見一つ一つが、東山にとっては宝となる。ここにいる皆様には、「東山・まち・みらい計画2020」が発信するメッセージを継承しつつ、各人の経験や知識を駆使していただき、計画の内容にとどまらない、より幅広い、自由な観点で、御発言いただきたい。

「東山の未来」を築くため、委員一同の英知を結集し全力で取り組んで参りたい。
本日は、実りある議論をしていきたいので、よろしくお願いします。

8 「東山の未来」区民会議について

座長：それでは、議事に入る前に、推進委員会から引き続きでない方もおられるので、本会議の目的やここに至るまでの経緯等について、事務局から説明をお願いします。

事務局：（「東山の未来」区民会議について説明（資料P 1のとおり））

参照：別冊「前期推進プログラム」

座長：これまでの策定委員会、推進委員会では理念づくりを行ってきた。今回からは、区民会議に発展改組し、実践的な活動をどうするかという議論になる。

座長：意見や質問はあるか。

副座長：今の事務局の御説明の補足になる。現在私どもの方で空き家の調査をしている。地域の皆様にはお世話になり、大変ありがたい。調査にあたり、町内会長さんに御説明するとき、東山区の調査であると説明しているが、正確には前身となる基本計画推進委員会における東山区の重点プロジェクトとして立ち上げたものとして、調査を進めている。先程、実践的な活動に入っていくというお話があった。私どもが調査をしている中で、区民の皆様と共に汗をかく、「共汗」を理念としているが様々な問題もある。

特に個人情報の問題がある。私どもも慎重に、気を付けて行っているが、市民の皆さんと一緒にやると、このような個人情報問題は必ずでてくる。誰が、どうやって情報を管理するのか。理念を議論している間は問題は生じないが、調査を進めていくと、自治連合会の会長様にも御苦勞をおかけしているかと思う。どのようにして情報を得つつ、また、管理していくのか、一緒に考えて参りたい。私どもも配慮しつつ調査をして参りたいので、調査の御協力をお願いしたい。そして、この会議でもこの問題を取り上げて、皆さんと考える参りたい。

座長：ただいまの副座長の御意見、お願いを含めいかがか。意見がないので、了承いただいたものとさせていただきます。

9 議事

(1) 東山区区民提案・共汗型まちづくり支援事業について

事務局：（東山区区民提案・共汗型まちづくり支援事業について説明（資料P 7のとおり））

新規事業として、「地域防災力の強化」を「結び合う心」枠（地域の絆の強化）に掲げている。避難所運営マニュアルの作成、避難所運営訓練・防災研修を実施して参りたい。地域防災事業は、区基本計画策定後に東日本大震災が起こり、最も変わった点であると考えており、力を入れて参りたい。

「まちづくりカフェ@東山」について、活動場所や活動方法の検討、平成25年度の新規参加者の活動支援を考えて参りたい。

新規事業として、「ひがしやまハピネスプロジェクト」を掲げている。詳細はまだまだ定まっていないが、区の人口減少の原因や、東山に暮らす喜びの検討など、若い世代の

東山区への定住化を促進し、まちの活性化につなげたいと考えている。

東山区まちづくり支援事業においては、4つのプロジェクト事業を継続し、課題解決型事業・自由提案型事業では、事業の規模に応じた補助メニューの設定など、より活用しやすい制度への改正、京都府の補助金と連携した実質的な補助額の増額等を検討していきたい。

座長：委員の皆さんいかがか。自由に発言いただきたい。（事務局に）新提案はあるか。

事務局：一つは「地域防災力の強化」であり、避難所マニュアルの作成と効果的な訓練を実施して参りたい。

もう一つは、「ひがしやまハピネスプロジェクト」である。区の人口減少について、原因を探るとともに、住んでいる人が、東山は暮らしやすい、東山に暮らして嬉しいという気持ちが持てる取組、また、若い人が東山に住んでみたいと思える取組を考えたい。それが、東山の活性化につながると考える。

座長：基本計画の策定委員会の際に、重点課題として空き家の問題があった。もう一つ、交通問題もあったかと思う。これは防災計画とも関係する重要な問題だと思う。資料の文面からは見えないが、いかがか。

事務局：東大路通の整備については、京都市が取組を検討していくための委員会を設置し、議論している。今年度調査費として1,400万円の補正予算がついており、様々な調査を行っていく。今後どのような道路構成にするか、議論を進めていく。もちろん、東山区においても重要な課題であり、前期推進プログラムには重点課題として、明記している。ただ、東山区の個別の予算として計上し、執行するものではないので、この資料には記していない。

座長：その委員会とこの区民会議との関係性についてはいかがか。

事務局：この会議の委員である各自治連合会の会長様、各種団体、特に東山交通安全体対協議会の会長をはじめとして、御発言いただいている。会議そのものが直結しているわけではないが、同じメンバーの方がそれぞれの立場で、御議論、御検討いただいている。

座長：そちらの会議では、予算は審議しているのか。

事務局：予算自体は京都市で考えている。その予算で、どのような取組をするか、道路構成にするかを議論している。

委員：空き家の調査をありがたく思っている。調査にあたって、副座長である井上先生の御意見や感じられたこと、町内会でどうしたらよいのか教えていただきたい。

また、東山区には観光や道路の問題があるが、東山区は南から見たら大谷高校、京都女子大学、華頂大学、東山区からは外れるが、東山高校、京都大学と学校が大変多い。この地域には、学校が集約されている。何か学校があることを利用できないか。地域とのつながりをつくれぬか。北部では、地域活性化にもつながる東山開晴館という小中一貫校ができ、南部でももうすぐできる。地元では教育や文化基盤が整いつつある。この流れを地元の活性化につなげられないか。これだけ素晴らしい学校が東山にあるのだから、何か地域に対して、プラスになることを取り組んでもらいたい。

その一方で、交通問題がある。市政協力委員の会長会議でも議題にしているが、東山

にJRの新駅ができないか、駐車場がつかれないかということを行政に要望している。できることはあるはず。防災の問題、空き家の問題についても、とんでもない所に家が建っていたりする。そこが空き家となりどんな人が住むのか、ということも地域の人間として不安に思う。また報告などいただきたい。

また、京都では、西陣織とこの東山地域の京焼・清水焼をはじめとして多くの伝統産業がある。東山区自体をギャラリー化してはどうか。職人のまちである東山では、京都の伝統産業がどこでも見られるのが、良いところだと思う。

副座長：空き家について、すごく深刻な町とそれほどでもないところがある。それを町内で解決できる地域力のあるところと、把握していても高齢者ばかりでできないところがある。全ての町で同じ方法をとることはできない。たとえば自治連合会が力を貸して、取り組むことが必要かと思う。問題の空き家率が高い町では40%を越えており、周辺の地域力のある町が協力することが必要だと思う。調査がまとまったら、プライバシーに配慮しつつ、地域の方に公表したい。たとえば、どこが空き家になるかを届けてもらうというような、できることから個別に地域で話し合っていたいただきたい。その参考となるための調査をしている。

学校について、御発言の通り、学校が多い地域だと思う。京都女子大学でも地域の皆様と様々な関係をもって取り組んでいる。私の知る限りでも、華頂大学でも地域の商店街で掃除をされていると聞いている。学識経験者として参画いただいている京都造形芸術大学の関本先生も、東山区内で職人の調査やまちづくりに取り組んでいただいている。東山区は、いろんな大学が活動したいと思っている地域だと思う。今後、地域もそういったことを利用していただければと思う。

委員：職人について、職人の仕事をギャラリーとして見せていくという方法だが、空き家の問題とよく似ている。職人個人個人の思いが違っており、自分の作業を見せたくない人もおられる。

委員：私がそう。

委員：ただ、実際問題として、需要や仕事として成り立たせていくためには、職人も意識を変えていくことが必要だと思う。今、若手の40歳代の人たちがそういったことに取り組んでいる。先輩方はそれについて理解をしていただきたいし、見守っていただきたい。

座長：区民公募委員の方の御意見はいかがか。

委員：地域柄、観光やまちづくりに興味を持っており、皆様の御意見をお聞きして勉強させていただく立場かと思っている。空き家については、地域としてどうやってお互いを支え合っていくのか、地域の問題を考えるシステムづくりが重要かと思う。

座長：そのほかに御意見はあるか。

委員：新規の防災事業について、誰がやるのかが定まっておらず、共汗できていない。たとえば、京都女子大学が空き家の調査をされているが、自治連合会は具体的な方策が分かっていない。今熊野学区では、ノートルダム女学院大学に協力いただき、アンケートをとってもらっている。地域からは様々な意見があるが、良いことには取り組んでいただき、地域にフィードバックしてもらいたいと考えている。防災の問題も、消防署がやるのか、

安心安全ネットワークがやるのか等、具体策が見えてこない。やるからには一緒に汗をかいてやりたいと考えている。問題が出れば一緒に考えるシステム作りが今後大切になってくる。

座長：そのほかに御意見はあるか。

委員：平成25年度案について、東山区に住んでいるより多くの学生に福祉の担い手として地域に入ってもらいたいと思っている。本日も京都女子大学の福祉学科の学生に来ていただき、高齢者と交流していただいた。学生の方も意欲的に学んでおられ、高齢者の方も学生と接して喜んでいる。学生さんには高齢者から経験や知識を学んでいただけたと思う。

社会福祉協議会では、今年度の事業として独居高齢者の訪問事業をしている。8月頃からは地域包括支援センターの職員が一軒一軒回り、安否確認も含め、お住まいの状況をお尋ねいただいている。12月頃には名簿ができる予定をしている。この名簿を活用し、社会福祉協議会委員、民生委員、老人福祉委員が地域の見守り活動を行う予定にしている。

また、居場所づくり事業も行っている。高齢者が集って、生活で困ったこと等を地域の皆さんと相談してできるような場所を探している。長野市では、5年前から先駆的に空き家を活用して居場所づくりを行っている。テーブルと椅子を用意してお茶会を開いたり、軒下に椅子を設け、買い物帰りに一服できるような、居場所づくりであった。東山区でも、毎日テレビを見ているだけで家から出られない高齢者が多くおられる。貞教学区でも京都女子大学に居場所づくりを始めていただいている。来年度以降もプロジェクトとして取り組んでもらいたい。

委員：高齢者の引きこもりの問題や人口が減少していくなかでの空き家の問題という生活の問題と観光事業、商業振興とを分けて考える視点も必要かと思う。地域振興において、商業の振興は基礎中の基礎だが、同時に近い将来、極めて早い勢いで、少子高齢化が進む現実を念頭に置かなければならない。観光客が多く訪れ、京都の伝統文化が振興することは大事なことだが、東山に住む人の生活の問題がそれによって解消するわけではないと思う。それをきっちり分けて議論する必要がある。

最近「人口動態」がキーワードになっており、政令指定都市では北九州市内の2区が最も高齢化と人口減少が進んでおり、東山区はそれに続く第3位である。もちろん共通点があり、5年後10年後のことは十分に想像できる。この点について、きちんと向かい合うことが必要だと思う。

座長：大変重要な御指摘だと思う。基本計画で考えたことを、いかに実践するか、共汗して取り組んでいくかは、市民がその気になって参加しないと実現しないということが確認できた。

委員：共に汗をかく「共汗」だが、基本的なことが全然分かっていないのが現状。今、東山区のどこに空き家があるのか、職人がどこにおられるのかが分かっていない状態であるので、基本的な情報の蓄積や調査が必要だ。

座長：まずは調査、そして共汗して解決を目指す、ということか。この計画、その趣旨に御賛

同いただける方は拍手いただきたい。

委員一同：拍手

10 報告事項

事務局：(東山区まちづくり支援事業について説明(資料P8のとおり))

事務局：(各プロジェクトの活動について説明(資料P11のとおり))

事務局：(まちづくりカフェ@東山(資料P15のとおり))

※紹介映像を放映。京都市動画情報館でも閲覧可能。

座長：これらについて、いかがか。また全体を通して、御意見があればいただきたい。

特に無いようなので、事務局から御連絡いただきたい。

事務局：次回は3月を予定している。平成25年度事業やまちづくり支援事業の報告などを予定している。現在、各地域や各種団体での地域の取組を照会している。御不明な点があれば、個別に相談させていただくので、事務局までお問合せいただきたい。

閉会に先立ち、副座長から御挨拶いただきたい。

副座長：先程、少子高齢化・人口減少率が高い。政令指定都市で第3位だというお話があったが、私はそれほど悲観していない。確かに、人口減少率は高いが、それはたとえばお年寄りが亡くなった後そのままにして、空き家にしてしまっているから、その分空き家率が高くなっている。一方、東山に住みたいという人も多いのも事実。誰も空き家に人が入らないのかといえば、空き家の所有者が空き家を貸したくないという現実もある。所有者が貸したいと思うような環境づくりがまずは必要。そして、空き家の所有者のほとんどは東山区内在住であるから、東山区の皆さんで取組めば、ある程度解決できる。空き家が多いということは、一見悪いことに思えるが、そこに若い人が入れば一気に高齢化率は低下する。劇的に変化させることもできる。皆様と協力して、より良い「東山の未来」をつくっていききたい。